

授業概要

科目名		言語発達障害治療学				授業の種類	演習	講師名				
授業回数	23	回	時間数	45	時間	2	単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	ST2	前期
【授業の目的・ねらい】 VTR評価と実践的なかわりを通して、現場に近い形での評価を行う力を身につけることができる。												
【実務者経験】 言語聴覚士としてこども発達サポートセンター、野間こどもクリニックなどで発達障害児の言語聴覚療法に従事経験。												
【授業全体の内容の概要】 学内での小児セラピーへの参加を通して児との接し方や言語療法の実際を体験的に学び、観察・評価・目標設定などについて基本的な知識と技術を身につける。												
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 対象児を観察する力が身につき、基本的な評価が行える。 対象児への適切な関わりの知識と技術が身につく。												
回数	講義内容										準備物(教材)	
1	小児セラピー参加にあたっての心構えを理解できる										個人ファイル・ 身だしなみチェックリスト	
2	臨床において必要な情報管理・機器操作等について理解できる											
3	小児セラピーの基本的な流れについて理解できる											
4	担当児をVTRで観察し、児の大まかな特性や発達課題などを見つけることができる											
5	セラピーのねらいやプログラムの内容について、概要を説明できる											
6	グループセラピー①											
7	VTRにて丁寧な観察が行える											
8	セラピーのねらいやプログラムの内容について、概要を説明できる											
9	グループセラピー②											
10	セラピーのねらいやプログラムの内容について、概要を説明できる											
11	グループセラピー③											
12	VTRにて丁寧な観察が行える											
13	セラピーのねらいやプログラムの内容について、概要を説明できる											
14	グループセラピー④											
15	VTRにて丁寧な観察が行える											
16	セラピーのねらいやプログラムの内容について、概要を説明できる											
17	グループセラピー⑤											
18	VTRにて丁寧な観察が行える											
19	セラピーのねらいやプログラムの内容について、概要を説明できる											
20	グループセラピー⑥											
21	セラピーのねらいやプログラムの内容について、概要を説明できる											
22	グループセラピー⑦？											
23	まとめ											
【使用教科書・教材・参考書】 言語発達障害学第3版												
【準備学習・時間外学習】 小児関係の講義内容を復習しておくこと。主に定型発達の理解と臨床場面で使用する検査の理解。												
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】												
試験の結果を100点満点として成績を評価する 定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する												